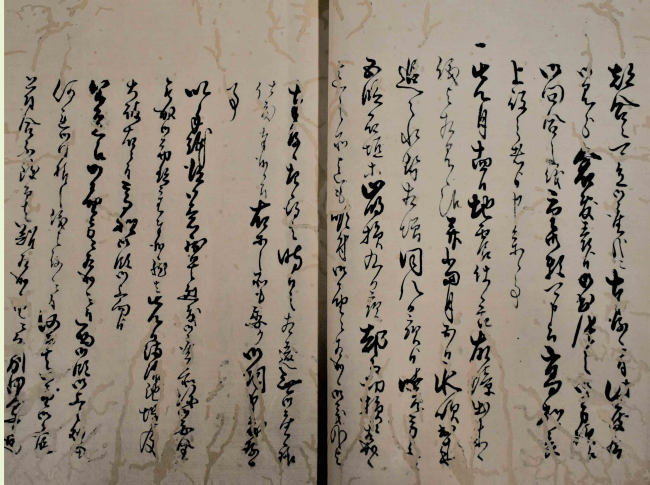


安政・昭和南海地震の新研究

主催：科学研究費補助金特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」グループ（研究代表者：奥村弘）、愛媛資料ネット
共催：えひめ文化財等防災ネットワーク、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター



日時

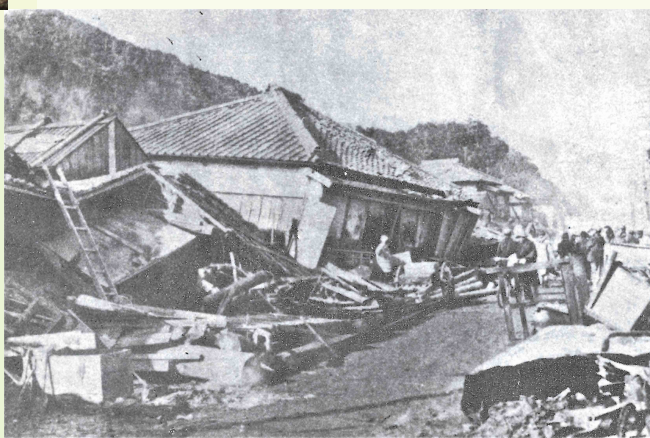
2021年 **11月27日**（土）
13:30～17:00

開催形式 ハイブリッド開催

- 会場：愛媛大学情報メディアセンター
 - オンライン：Zoom 利用
- ※会場参加は四国内先着 50 名
オンライン・会場参加とも要事前申込
詳細は裏面をご覧ください。



写真上から1段目：多度津藩の安政地震記録（香川県立ミュージアム蔵）、2段目：昭和南海地震に関する自然災害伝承碑（愛媛県松山市）、3段目：昭和南海地震で被災した高知県須崎市（『南海大震災誌』）、4段目：安政地震津波碑（徳島県小松島市赤石豊浦神社）



プログラム

(1) 報告

「昭和南海地震による被害状況と地域差」

大本敬久（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員／愛媛資料ネット）

「高知県における安政・昭和南海地震の災害継承について」

水松啓太（高知城歴史博物館学芸員）

「安政地震による讃岐国の被害について」

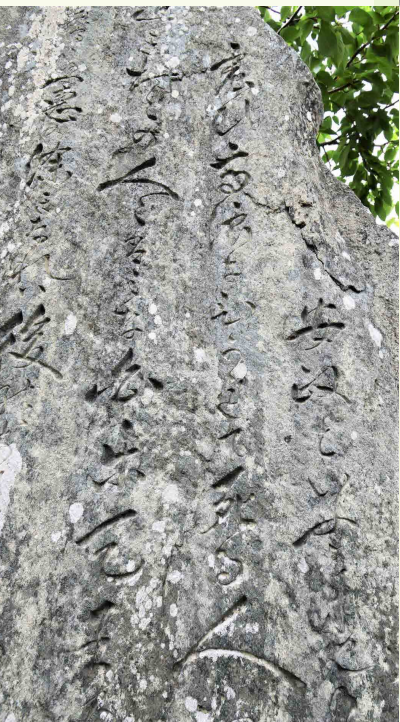
川邊優佑（香川県立ミュージアム学芸員／香川歴史学会）

「宝永地震と安政地震を経験した村」

町田哲（鳴門教育大学准教授／歴史資料保全ネットワーク・徳島）

(2) シンポジウム

コーディネーター 胡 光（愛媛大学教授／愛媛資料ネット）



【開催趣旨】

2016年12月に愛媛資料ネットが主催し、愛媛大学で開かれた第3回全国史料ネット研究交流集会では、地域歴史遺産を保全することが、地域の歴史を喪失しないだけでなく、防災や減災につながり、災害に強い地域社会を創る活用方法を考えてみました。昭和南海地震から70年という節目の年でもあったため『南海地震を伝え、備える』という特集を組み、基調講演をはじめ、関係する地域の方々に南海地震を意識した報告をお願いしました。ここでは、伝えようとしなければ忘れられてしまう歴史の特性、資料批判によって正しく情報を伝えることの重要性が確認されました。2019年には、国土地理院が「自然災害伝承碑」の地図記号を新たに作り、国民の防災意識高揚に努めています。

このような近年の動向もふまえて、本フォーラムでは、四国4県の報告者により、「安政・昭和南海地震」の研究を総括し、新たな研究を進めることを目指します。来るべき南海地震に向き合い、災害に強い地域社会創りに歴史学・民俗学がどのように関わっていけるのか考えてみます。

ご多用中恐縮ではありますが、ぜひ全国から多くの皆様にお集まりいただき、議論を深めていただきますよう、お願いいたします。

【参加方法・諸注意】

- オンライン参加、現地会場参加とも、事前申し込みをお願いします。
- 会場への参加は、四国在住の方50名とします（受付先着順）。
- ご来場できない方や希望者は、オンライン参加が可能です。
- コロナ禍の状況により、全てオンライン開催となった場合は、登録のメールアドレス宛てに連絡するとともに、愛媛資料ネットなどのホームページでお知らせします。（メールアドレスの登録は必須です。お間違えのないようにご記入願います）
- ご希望の参加方法により、申込フォームが分かれています。ご注意ください。
- 申込メ切：11月22日（月）

申込
フォー
ム

オンライン参加



<https://forms.gle/r1ppoteNd5Vqu6vC7>

会場参加



<https://forms.gle/hdXaewivNMnYU9Zf9>



愛媛資料ネット
ウェブサイト
<https://snet.ll.ehime-u.ac.jp/>

会
場

愛媛大学情報メディアセンター
松山市文京町3 愛媛大学城北キャンパス
伊予鉄道市内電車・環状線「赤十字病院前」
下車→徒歩5分

お
問
い
合
わ
せ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院人文学研究科（担当：加藤）
TEL/FAX:078-803-5566
Email:kato-akie@people.kobe-u.ac.jp
<https://rhcr.info>

